

いずみ会/旧都立大泉中学校・都立大泉高等学校同窓会

会報いずみ 第44号

発行/いずみ会 編集/いずみ会会報部

〒178-0063 東京都練馬区東大泉 5-3-1 都立大泉高等学校内

主な記事

- 2~4 執行部関係
- 5 母校関係
- 6 恩師近況
- 7 臨海学校と助教
- 8 クラブ訪問
- 9 マスコット今昔物語
- 10~11 同期会だより 他

母校文化祭に初参加

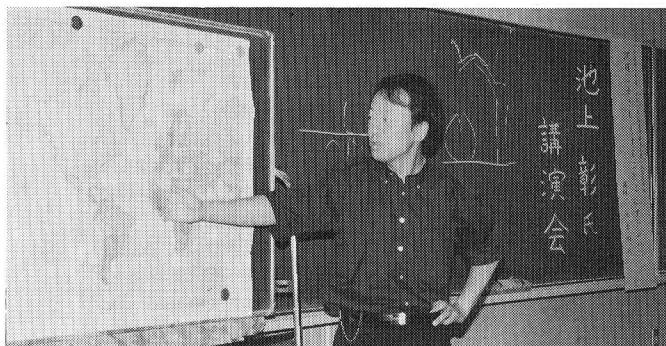
池上彰氏(高21期)講演会

昨年の母校文化祭は9月18、19日に開催され、校のトンネルは大勢の来校者で賑わいました。いずみ会も歴史を物語るパネルが飾られた「いずみ会コーナー」と、18日(土)にはNHK報道局記者主幹(という肩書きより「週刊こどもニュース」のお父さん役として有名な)池上彰氏(高21期)による、演題「やさしくすることは難しい」の講演の形で初参加をしました。

教室は満員御礼。にこやかに教壇に立たれた池上氏は、「元来ニュース番組は大人向けに難しく作られていて、それを子どもにも分かり易く話すということは大変なことである。」と話し始められ、つまり制作側はニュースを何も知らない人の立場に立つて作る、それが番組を面白くし、子どもばかりか老人にも楽しまれ、その結果この番組が他局の大人向けニュース番組にまで影響を及ぼしていることがわかった。

話は地域振興券、新幹線のトンネル壁落下事故に始まり、諫早の干拓問題、小淵首相の中国訪問、東チモールとキルギス紛争、クリントン大統領とモニカさんの仲良し関係、ダイオキシンのピログラム単位と盛沢山。

圧巻は各国の世界地図を張り出し、「世の中の物事の見方」に続きまし



た。日本発行のは真中に日本、左に中国、右にアメリカが書かれていました。欧州のは欧州が中心にあります。因みに日本はヨーロッパからみて極端に東にあるから中東と呼ばれます。日本は欧州から見ると極端なもので彼らは日本の事を殆ど知りません。中国発行の地図からは台湾問題が、国境線の種類からインドと中国の勢力関係が読みとれます(その地図では北方領土は日本の領土としてあり、中国が日本側の立場だという現れ)。ア

メリカの地図では当然中心にアメリカがあり、彼らは学校でこの地図を見て育つので、世界のもめ事はアメリカが当然主権を持つて何とかしなくてはと思う国民性が自然に育ちます(ちなみに北方領土はロシアの領土になっている)。究極の例はオーストラリアで、地図が南北逆立ちをしていて、北極が下にあります。地図は多くを語っています。

時間一杯に時事即応の話題を硬軟織り交ぜ、お得意の駄洒落も連発。さすがこれがプロという話ぶりに教

いずみ会ホームページ開設に向けて

本会では昨年度の事業計画「ホームページ開設についての検討」に沿って、「ホームページ検討委員会」を設置して、様々な面からの検討を行ってまいりました。

昨今の情報の多様化、スピード化には目を見張るものがあります。本会も、会の目的のひとつの会員同士の親睦を深める一手段として、ホームページの利便性、可能性について多方面から検討した結果、設置する方針としました。

室を埋めた会員、PTAの父母達は笑いとうなずきの連続でした。

最後に前に陣取って聞いていた在校生に向い、「世の中には様々な見方があります。国際人になって色々な考えの人と付き合おうと、自分の常識が通用しないことが多い。みんなに国際人になって欲しい。また21世紀になるときっと大泉が良い学校だったと後になってわかるので頑張ってください。」と結ばれました。

(総務・企画部)

員の方々がいつでも気軽に覗いたり、参加出来る場になると考えます。

また、検討の中で一番問題になったのは「情報の平等性」です。パソコンをお持ちでない等、ホームページを見ることの出来ない会員の方々に情報の格差が生じてはいけないという事です。

結論としては、ある程度までの格差はその有効性が勝るが、常に「情報の平等性」を念頭に置いて運営にあたる事が重要であるとのことになりました。

本年5月の定時幹事総会で本年度の事業としてホームページの開設が承認されました。それを受けて、ホームページ開設へ向けて、制作にとりかかりました。既にいくつかの同期会やOB会のHPがありますが、これからは「いずみ会HP」を核に会員全体の輪が広がってゆくと考えます。皆様からのお力添えで素晴らしいHPに育て上げてゆきたいと思

本年度
いずみ会総会・懇親会 10月22日(日) 午後1時
母校にて開催(詳細は12面に)

本年度 定時幹事総会報告

本年度の定時幹事総会は、5月27日(土) 母校会議室で幹事59名の出席で開催されました。

西澤理事の司会進行で開会が告げられ、田中会長の挨拶のあと、議事録署名人(山田毅幹事・高41、長坂幸子幹事・高52)を選任し、議長に土肥理事が選任され議事に入りました。

議事：(1)平成11年度事業報告(宇多事務局長)、収支決算承認の件(真柳理事) (2)平成11年度監査報告の件(椎葉監査役)の報告があり、満場拍手で承認されました。

(3)平成12年度事業計画案、予算案承認の件(宇多事務局長)が説明され、これも満場拍手をもって承認されました。

(4)規約改正の件(宇多事務局長)の説明があり、副会長定員3名に変更



定時幹事総会 出席者一覧

登録幹事総数:606名、出席幹事数:59名、委任状提出幹事数:213名
出席幹事氏名(敬称略)

(中1)小川喜卯六、永川俊彦、(中2)片山達郎、菊谷義美、田中英道、(高4)佐々木健雄、(高6)梅澤やよひ、篠匡昭、(高7)板倉克明、山田清子、(高8)岡崎美代子、堤美穂子、茂木光男、(高9)大軒史子、清水信、山下嗣夫、(高10)小川皓司、角原佑一、廣川和男、藤田肇、野口悦子、(高11)片寄紘一、加藤多鶴子、北上俊人、椎葉亮一、富田順子、(高12)相川光夫、板橋昭寿、小野田敦子、洪井周而、(高13)丸山和郎、山田秀之、山本章義、(高16)大場修一、鈴木哲、前野進、宮地久司、(高17)中津隈健一、(高18)伊藤英隆、(高20)金子研一、川口章子、菊池素子、栗原正成、讃井正光、寺章夫、土肥曉美、(高21)岩城隆就、植村久、原田京、若林和子、(高24)真柳仁、(高25)宇多正行、吉田寛、(高28)西澤正博、野島陽子、(高31)原秀年、(高41)山田毅、(高51)安斎聡、(高52)長坂幸子
(敬称略、各期50音順)

予定と候補者2名についての質疑(鈴木幹事・高16等)があり、執行部から現行規約に沿った運用であり問題ない旨説明がありました。その後採決の結果、挙手大多数で承認されました。

続いて、報告事項に入りました。報告事項：(1)名簿部より名簿購入と協賛広告のお願い、(2)会計部より会費納入のお願い、(3)会報部より同年会開催情報等をお願い、(4)総務・企画部より総会・懇親会「0の会」協力をお願い、(5)現教員北上理事より母校の現状の紹介、(6)新入幹事2名の紹介、(7)新年度役員及び退任役員の紹介がありました。

以上で議事がすべて終了し、閉会が宣せられました。引き続き同会場と和やかな雰囲気懇親会が催されました。(会報部)

名簿発行特別会計

平成11年度収支

第1. 収入の部

1 名簿引当金繰り入れ	2,800,000
2 名簿引当金利息	67,931
3 名簿売り上げ	1,248,000
4 広告売り上げ	60,000
収入合計	4,175,931

第2. 支出の部

1 会費	36,192
2 データ調査費	133,063
3 雑費	210
支出合計	169,465

第3. 収支差額の部

1 収入合計	4,175,931
2 支出合計	169,465
収支差額(繰越金)	4,006,466

名簿発行 特別会計 収支予算

平成11年4月1日～平成13年3月31日

第1. 収入の部

1 名簿引当金繰り入れ	2,800,000
2 名簿引当金利息	67,931
3 名簿売り上げ	1,800,000
4 広告売り上げ	800,000
収入合計	5,467,931

第2. 支出の部

1 会費	150,000
2 販売促進・広告募集費	150,000
3 データ調査・加工費	460,000
4 記事制作費	50,000
5 印刷費	3,700,000
6 運搬・発送費	450,000
7 雑費	100,000
支出合計	5,060,000

第3. 収支差額の部

1 収入合計	5,467,931
2 支出合計	5,060,000
収支差額	407,931

平成11年度 収支決算

(単位：円)

平成12年3月31日

第1. 当期収入の部

1 新入会員入会金(281人)	1,405,000
2 本年度分会費(2735人分)	2,735,000
3 寄付	411,000
4 総会参加費	254,000
5 雑収入(利息、祝儀等)	64,830
6 50周年記念誌等売上	3,000
当期収入合計	4,872,830

第2. 当期支出の部

1 総会費	364,280
2 役員、幹事会合費	228,525
3 監査役会費	3,344
4 会報費	2,329,422
5 会費徴収経費	82,120
6 名簿調査管理費	166,512
7 母校連絡費	104,445
8 新会員向け名簿作成費	45,807
9 雑費	50,541
10 名簿積立金支出(次回分)	600,000
11 予備費	59,450
12 設備、什器、備品費	13,440
当期支出合計	4,047,886

第3. 当期収支の部

1 当期収入合計	4,872,830
2 当期支出合計	4,047,886
当期収支差額	824,944
前期繰越金	6,730,146
次期繰越金	7,555,090

平成12年度 収支予算

第1. 当期収入の部

1 新入会員入会金(285人)	1,425,000
2 本年度分会費(2571人)	2,571,000
3 寄付	644,500
4 総会参加費	250,000
5 雑収入(利息、祝儀等)	100,000
6 50周年記念誌等売上	0
当期収入合計	4,990,500

第2. 当期支出の部

1 総会費	380,000
2 役員、幹事会合費	390,000
3 監査役会費	10,000
4 広報費	2,600,000
5 会費徴収経費	106,760
6 名簿調査管理費	250,000
7 母校連絡費	150,000
8 新会員向け名簿作成費	0
9 雑費	50,000
10 名簿積立金支出(次回分)	600,000
11 予備費	100,000
12 設備、什器、備品費	350,000
当期支出合計	4,976,760

第3. 当期収支の部

1 当期収入合計	4,990,500
2 当期支出合計	4,976,760
当期収支差額	13,740
前期繰越金	7,555,090
次期繰越金	7,568,830

いずみ会財産

平成12年3月31日現在

一般会計次期繰越金	7,555,090	同窓会名簿(1995年発行)	22冊
前受会費等	16,740,930	高校50周年記念誌	43冊
名簿引当金(次回分)	600,000	パソコン(平成7・8・9年度に購入)	3台
合計	24,896,020	プリンター(平成7・10年度に購入)	2台

平成12年度 事業計画

第1 総会の開催

平成12年10月22日(日)母校にて開催予定。
本年度の総会後の懇親会の企画立案・運営については、期の下一桁が0の期の方々の「0の会」にお願いすることとする。

第2 定時幹事総会の開催

平成12年5月27日(土)母校にて開催予定。定例の議事並びに役員改選、規約改正、ホームページの開設等の審議を予定。

第3 会報の発行

会報いずみ第44号を9月に発行予定。内容としては、いずみ会活動報告、新役員の紹介、母校及び恩師の近況、会員情報、2000年名簿の販売案内等の記事を予定。

第4 名簿の整備、新名簿の発行

名簿部の年間の定例作業の確立により、名簿情報の充実を図り、また、名簿のデータベースを簡素化し、使いやすさ、サービスの向上を図る。

平成12年秋に2000年名簿を完成、発行する。

第5 会員との情報交換の拡充

昨年度、いずみ会の電子メールアドレスを設けたが、更に活発な情報交換を図るため、ホームページを開設する。

第6 母校との連携

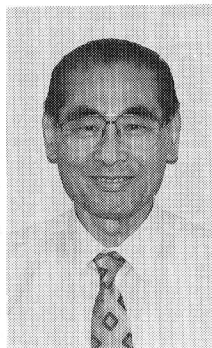
母校との関係強化のため、懇談会を開催する。
母校及びPTA開催の催事への協力を行う。

第7 新幹事(高校52期)との懇親

新幹事との懇親を深め、併せて期の名簿の維持管理等を依頼する。

第8 入会式の開催

卒業式予行後に入会式を開催し、新卒業生(高校53期)をいずみ会の会員に迎え入れ、また、会長より新幹事の就任をお願いする。



就任した最初の年は、ともかく会の健全化を図り、特に会計面には留意を重ね、使途を公正且つ明確にする等の基本に立ち戻ることを心がけました。次年からは「開かれたいずみ」

今年は暑い毎日が続きましたが、会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。二千年問題も大過なく年が明け、二十世紀最後の年ももう四分の三を過ぎてしまいました。私がこのいずみ会の会長をお引き受けて今年で9年目になりますが、顧みますとその年々で目標とする課題が違っていたことに気付きます。

「会」をスローガンに、会員からみて会の活動状況が理解し易いよう、かつ若い人の参加を積極的に呼びかけました。会費制度導入も会員の意識の向上に繋がりを、また会報も時代に合わせA4版印刷にすることにより読み易さを図りました。その発送部数も名簿の整備と歩調を合わせるように伸び続け、それに対する会員からの直接の反響も頂けるようになりました。

それまで春に行われていた総会・懇親会も秋に変更し、企画も今までの画一的なものから「下一桁の会」という縦割りの当番期による呼びかけで、参加会員は会場に溢れるほどの数になっております。今年は「2000年名簿」の発行をいたしますが、会員の住所判明率は飛躍的に伸び、それはここ数年に亘る会員のご理解の賜物と思っております。

さて、今や情報メディアの主流となったインターネット通信は茶の間にも浸透し、主婦や高齢者にも格好な情報入手手段になっております。このたびはいずみ会のホームページ開設事業が春の幹事総会で決定され、それは同窓会という存在を外へ向けて発信する形になり、母校在校生やPTAとの交流も自然に交わされていくこととなります。反面大泉に關心の在る人なら誰でも覗けるという怖さにもなります。



2000年7月 役員の顔ぶれ

平成11年度 活動報告

総会・懇親会

●平成11年10月24日(日)、母校多目的室で総会、会議室で懇親会を開催した。懇親会は下一桁が9の期が「9の会」を結成し、企画立案、運営にあたり、会員129名と恩師の参加を得て、成功裡に終わった。

定時幹事総会

●平成11年5月22日(土)、母校会議室にて開催し、幹事44名の出席があり、活発な質疑が行われた。

「平成10年度事業報告・決算、平成11年度事業計画・予算案」が承認された。平成12年度に新名簿を発行することを決議した。

名簿

●住所情報の具体的な呼びかけ「WANTED」を実施したところ1000件以上の情報が寄せられた。

●2000年名簿発行に向けて、名簿情報の修正作業、協賛広告の募集、販売促進を進めた。

●平成12年3月12日(日)、各期名簿担当者会合を開催し、60名程の参加を得て、各期の名簿の一層の充実に向けての協力をお願いした。特に若い期の参加が多かった。

●縦のつながりを重視し、クラブ、同好会OB会へのアプローチを行った。

広報

●平成11年9月11日(土)、会報いずみ第43号を16500部発行し、会員約16000名に発送し、また、教職員及び新卒業生に配布した。
●平成11年の定時幹事総会の決議に基づき、いずみ会の活性化を図るため、いずみ会のホームページを開設するか否かの検討委員会を設け、3回にわたり委員会を持ちホームページに関する検討を行った。

新幹事

●新幹事(高51期)へ会報の発送作業の協力をお願いし、互いの懇親を深めた。

●平成12年3月13日(月)、母校体育館において入会式を開催し、新卒業生(高校52期)283名が新たに本会会員となった。また、茂木副会長より、新幹事16名へ就任をお願いした。

母校

●平成11年7月10日(土)、吉野校長はじめ高校関係者6名と田中会長以下本会役員5名が懇談会を開催し、お互いの協力を確認した。

●平成11年9月18日(土)、母校文化祭に初参加し、NHK報道局記者主幹の池上彰氏(高21期)の記念講演(演題「やさしくすることは難しい」)を開催し、好評を博した。

●母校行事の入学式、体育祭、卒業式に本会を代表して田中会長が出席した。

役員改選

本年度定時幹事総会で、以下の役員が選ばれました。5名の新役員が着任し、5名の役員が退任されました。

いずみ会 新役員名簿

会長	田中 英道(中2)	副会長	茂木 光男(高8)	理事	角原 佑一(高10)	菊谷 義美(中2)	高橋 保孝(高6)	大軒 史子(高9)	廣川 和男(高10)	北上 俊人(高11)	大場 修一(高16)	寺 章夫(高20)	土肥 曉美(高20)
監査役	春日 孟(中1)	顧問	梅澤 やよひ(高6)	退任役員	椎葉 亮一(高11)	高橋 公治(現校長)	武市 則昭(高9)	小野田 敦子(高12)	斎藤 俊夫(高29)	築 茂之(高30)	山田 清子(高7)	監査役	山田 清子(高7)

総会・懇親会報告

昨年度の総会・懇親会は、平成11年10月24日(日)、母校にて開催。晴天にも恵まれ、多数の会員・恩師をお迎えすることができました。

総会では、同窓会田中会長より活動報告に加え、12年度発行予定の同窓会名簿への協力依頼があり、宇多事務局長からは、決算・予算の報告がありました。また、吉野校長先生からは、文武両道、昔と変わらぬ現役生徒たちの様子を伺いました。

総会に続く懇親会、昨年度は、卒業期の下一桁が9の期の「9の会」が、その企画・運営を担当。午前中から準備をした会場では、9の会の林会長(高9期)の挨拶に続く乾杯以降、参加者同士の話で盛り上がり、隣の人の話し声も聞きづらいほど。

「9の会」報告

一桁期は体力、二桁期は知力

昨年度の総会・懇親会は下一桁9の期が、その懇親会の企画と運営のお手伝いを行いました。

総会に続く懇親会は例年通り母校会議室で開かれ、野田由男氏(高29期)の軽妙な司会で恩師先生方と約一四〇名の参加者が楽しいひと時を過ごしました。

今回のテーマは「大泉NOW」で、久しぶりに母校周辺の大泉をビデオでご覧いただくというものです。

特に企画運営上の留意点。会場設営、受付、供応接待等の各パートの運営は、主として高9期が机や椅子の運搬配置作業を担当、二桁世代(19、29、39期)は企画スタッフとし

準備したビデオも今回は完全に脇役に回ってしまいました。

校歌・校友の歌斉唱の後には、次年度の当番である「0の会」の小川氏(高10期)への引継ぎがなされ、記念撮影の後、お開きとなりました。

(総務・企画部)



9の会会長 林久次郎(高9期)

て指揮命令系統を掌握し司会進行等、実にスムーズに懇親会成就に及んだと評価しています。働くことは、肉体を使うことと心得た世代が力と汗を出し、パソコンを駆使し合理性を追求するのを仕事としている世代が的確な構図を以って指示に当たったことが成功の基です。

反省会で9期のロートル曰く「俺たち運んだり並べたりで、なんで指図する仕事がないのだ？」それでいいのだ。肉体労働が枯渇した頭脳をリフレッシュするのは自明の理である。

今後も一桁の期が体力を発揮するよう、申し送ります。

入会式 二八三名が新会員に

二〇〇〇年三月三日午後、母校で、わが「いずみ会」への入会式が行われた。今年の新入会員は二八三名で高52期生となります。茂木副会長の「先輩をどう利用するか」という実質的で、軽妙な「いずみ会のコマシヤル」もまた例年のとおりでした。それからいよいよ卒業各クラスのみずみ会幹事の任命式です。受験戦争の最前線で奮闘した、あるいはしつある卒業予備生たちにとって、同窓会の幹事になることがどういうことであるのか、ほとんど自覚されていないというのが正直なところでしょう。氏名を呼ばれて、とま



どいながら壇上に立つ彼らの一人一人に、「幹事委嘱状」が、副会長から手渡され、かくて新しい幹事が誕生しました。彼らの手によっていずみ会が運営されていく日がいつかは来ます。新幹事の皆さん、二一世紀をよろしく！
(会報部)

新幹事名簿 高52期

1組	稲崎 浩平	坂田 瑞穂子
2組	安藤 悠一	武田 満里子
3組	橋本 健太	内田 麻代
4組	渡辺 太地	三隅 有里子
5組	井口 祥代	宇佐美 友梨
	藤森 美貴	船越 亜希美
6組	岩本 大輔	関口 真琴
7組	川上 崇穂	長坂 幸子
	以上16名	

規約改正のお知らせ

本年度の定時幹事総会で、いずみ会規約の一部が改正されました。改正のポイントとその理由

1 副会長を1名増員して3名に。

これまでの体制は副会長を2名としており、母校におけるさまざまな行事等において、会長に都合がつかない場合には副会長が出席し、また、いずみ会活動における「くの会」、「名簿作成」等個別の重要な事業において必要がある場合にはその補佐を行っていました。

今後一桁の期が体力を発揮するよう、申し送ります。

それに仕事を持つことから、母校から招待された行事等への出席についてその日程の調整に困難を来す場合があります。また、いずみ会の事業が重なったときにはその負担が過重となる場合があります。副会長の定数を1名増員して3名とすることとしました。

2 副会長に欠員が生じた場合に、その残任期間に限って副会長代行を理事会の互選により選任できることとしました。

平成11年5月に当時の石井副会長

が亡くなられ、その直後の幹事総会において副会長を1名選任するか否かが問題となりました。

現行規約(規則)上、このように副会長に欠員が出た場合にその補充を行うためには、副会長選任の(臨時)幹事総会を行う旨を会報で会員に周知させ、立候補、推薦を経た上で、幹事総会において副会長を選任しなければならぬことになっています。そのため、このような選任手続を経ない状況で副会長を選任することは問題があるため、結局同幹事総会においては、副会長の選任はなされませんでした。

しかしながら、現実には副会長に欠員が生じた状態で会の運営にはいろいろと困難を伴ったため、そのような事態が生じたときに機動的な会の運営のために、副会長に欠員が生じた場合には、その副会長の残任期間に限り、理事会の互選にて副会長代行を選任できるといたしました。

なお、いずみ会規約の変更は、以下のとおりです。

第18条第1項第2号中「2名」を「3名」に改める。
第20条の次に、次の一条を加える。

(副会長代行)

第20条の2 副会長に欠員を生じた場合には、補欠が選任されるまでの間、理事会において、理事の中から副会長代行を選任することができる。

附則

この規約は、平成12年5月27日から施行する。

明るく爽やかな生徒たちと

第十六代校長
高橋 公治

練馬百景の桜のなか、第十六代校長として着任いたしました。大変光栄なことに、着任早々「いずみ会」会長の田中英道先生にお会いでき、ご挨拶等々、会の様子をお聞きすることができました。昭和十六年の創立以来、二万名を超える同窓OBORGの各界でのご活躍、そして母校へのご支援に、この場を借りて敬意を表します。都立高校の地盤沈下が叫ばれて久しくなりますが、幸い本校が同窓会、保護者のご協力により、文武両道の校風を保ち、高い評価を受けていることは感謝に耐えません。



平成12年度学校行事

4月11日 入学式
5月10日 体育祭
9月23、24日 文化祭
10月14日 開校記念日
平成13年
1月14日 17日 二年生HR合宿
3月12日 いずみ会入会式
3月13日 卒業式

活躍しています

▽野球部
全国高校野球選手権西東京大会で、2回戦、対都中野工 16対1(5回コールド)、3回戦、対国立東京高専 10対3(8回コールド)と順調に勝

▽柔道部
東京都高校第5支部大会
2位 飛永勝太(3年)
▽剣道部
東京都高校ブロック予選

▽女子バスケットボール部
東京都高校ブロック予選
2位(2部校に昇格)
▽女子バスケットボール部
東京都高校第3支部大会で内田知行(3年)、牧田枝里(2年)他が活躍しました。

▽水上泳部
山本圭太(3年)、悠太(1年)兄弟が関東大会に出場しました。
▽陸上競技部
東京都高校第3支部大会で内田知行(3年)、牧田枝里(2年)他が活躍しました。

に進みましたが、4回戦で惜しくも早大学院に3対5で敗れました。

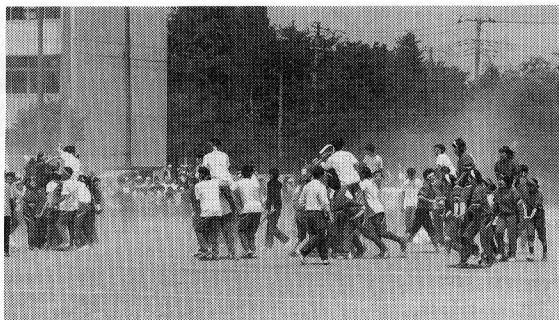
高橋公治校長略歴

昭和17年品川生れ、東京理科大学卒、昭和45年～平成4年 向島商、両国、城東、井草各高校の物理科教諭。城東、井草時代に野球部顧問。平成5～8年 南高校教頭。平成9～11年 北野高校校長。平成12年～ 大泉高校校長

なお、平成十三年十月十三日には六十周年記念式典、祝賀会を予定しています。「いずみ会」会員各位には、何かとお世話になります。宜しくお願いいたします。

現在、校内では、間近に迫った全週五日制や、指導要領改訂を機に、特色ある教育課程の編成に向けて作業を進めております。明るく爽やかな生徒が、先輩諸氏のように、知識の多寡だけでなく、人柄を陶冶し、校名をさらに高める学校づくりが課題です。

男子団体戦ベスト8
▽女子バレーボール部
東京都高校春季リーグ戦
ブロック優勝(1部大会進出)
▽男子ソフトテニス部
東京地区国公立高校大会
ベスト8



2000年5月10日 体育祭

母校創立60周年記念行事

昭和16(一九四一)年に創立されたわが母校は平成13(二〇〇一)年に60周年を迎えます。これを記念して母校では平成13年10月13日(土)に記念式典等を予定しています。現教職員で「60周年記念行事準備委員会」を作り、記念誌の発行、記念式の企画等の検討を開始しています。これは在校生のデザインのご協力です。



教職員人事異動(敬称略)

(一) 転出先または前任校

嘱目嘱託

【転出、退職】

校長 吉野 尚也

(退職) 東京女子体育大学

倫社 木立 正敏(清瀬)

音楽 嶋田 恵子(八王子養護)

事務 川口 禮子(白鷺養護)

事務 中川 卓彌(久留米養護)

事務 早川 泰子(石神井)

【転入】

校長 高橋 公治(北野)

倫社 藤 興城(東大和)

音楽 高橋 ひな子(二橋)

進路嘱 中込 勝英(竹早)

養護嘱 岡本 ゆり子(豊島)

事務 加藤 俊彦(第四商業)

事務 齋藤 里美(小石川工業)

事務 池田 岳大(新規)

進路状況

() 内は既卒者、内数

平成12年進路資料より

〔国公立大学〕 山形1(1)、宇都宮1(1)、筑波1、埼玉9(3)、千葉2(1)、電気通信3(2)、東京1(1)、東京外語1、東京学芸3(2)、東京芸術・美術1(1)、東京工業2(2)、東京農工2(1)、九州1(1)、佐賀医科1、琉球3(2)、都立4(1)、都留文科1(1)以上 計37名(内既卒者20名)

〔私立大学〕 青山学院22(8)、亜細亜2、跡見学園女子1(1)、大妻女子2、金沢工業1、学習院14(6)、学習院女子1、共立女子1(1)、共立薬科2(1)、杏林1、国立音楽1(1)、慶応義塾6(3)、恵泉女学院(1)、国士館1(1)、工学院3、国学院5(1)、国際基督教2(1)、駒沢5(3)、芝浦工業7(3)、上智4(1)、昭和女子1、昭和薬科2(2)、駿河台1(1)、札幌学院1(1)、成蹊13(1)、成城5(1)、専修5(2)、洗足学園1(1)、創価1(1)、大正3、大東文化3(1)、拓殖3(1)、多摩美術2、中央30(12)、津田塾2、東海28(1)、東京家政3(1)、東京経済5、東京工芸2(1)、東京国際3、東京女子2(1)、東京女子医科1、東京電機4、東京農業5(2)、東京薬科1(1)、東京理科17(11)、同志社2、東邦6(4)、東洋17(7)、独協7(4)、日本18(13)、日本社会事業1、日本女子4、日本体育1、フェリス女学院1(1)、文教3(2)、法政34(14)、武蔵21(3)、武蔵野女子3、武蔵野美術4(4)、明治34(14)、明治学院10(7)、明治薬科2(1)、立教17(7)、立命館2(2)、早稲田23(14) 以上 計390名(内既卒者161名)

〔短期大学〕 埼玉県立1(1)、都立立川1、青山学院女子5、十文字学園女子2、女子美術1、白梅1、順天堂医療1、東京家政4、東京成徳1、日赤武蔵野1、武蔵野女子1、明治2、立教女学院1 以上 計22名(内既卒者1名)

〔専修、各種学校〕 ESPミュージカルアカデミー1、国立東京医療センター看護1、東京科学芸術1、東京スポーツレクリエーション1、東京テクニカルカレッジ1、東京ネットワーク1、東京福祉商経1、東京ミュージック&メディアアーツ尚美3、トラベルジャーナル2、都立豊島看護1、日本外語1、日本工学院2、文化服装学院1、武蔵野調理師1 計18名

〔就職〕 なし

恩師近況

鈴木 高男 先生

社会 S 19 / 39



私は昭和十九年四月から、同三十九年三月まで、都立大泉中学、

同高等学校に勤務し、その後更に十余年間、東京都の教育に微力をつくしてまいりました。

退職後早くも二十一年になります。が、三十年程前から持病をかかえ、無理はできないものの、幸い現在もなんとか無事消光しております。三年前旧居の近くに小宅を建てて転居しました。私も今秋には八十二才、若き日大泉で指導ご鞭撻を賜わった先生方も、今は多く物故されて淋しい限りです。今の私は健康に留意しながら、余生を少しでも有意義に過ごすべく、これまで、手がけてきたさまざまな計画を完成すべく努力を続けている毎日です。

宇高 ちさ 先生

数学 S 26 / 55



私は昭和五十五年到大泉を退職しましてから、趣味でやっております。昭和五十七年に東京証券会館で見台開きを

て十年以上経ちますが、今でもなつかしく思い出しています。私の教師としての青春時代を過ごしたすばらしい学校ですから。

木立 正敏 先生

社会 S 62 / H 12



現在、新たな気持ちで清瀬高校に勤務しております。

三年間には、松田隆夫さんと一緒に車椅子体験学習にとり組むなど、様々な試みを実践しました。初めは色々と壁がありましたが、今では当り前の体験学習となっており、感慨深いものがあります。

田村 茂 先生

英語 S 52 / H 元



平成元年に大泉高校から六学区の隅田川高校校舎に異動しました。

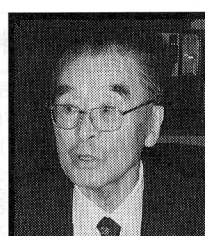
た。堤校舎勤務時に、足立区から日野市へ転居したので、平成6年に現任校の日野高校(七学区)に異動しました。日野高校は自宅から近く、自転車通勤しています。日野高校は浅川と多摩川の合流点の近くであり、落ち着いた学校です。大泉高校には十二年間勤務し、三回卒業生を出しましたが、堤校舎と日野高校では各々一回卒業生を出しています。本年は担任ではありませんが、教務部という分掌の長として、忙しい毎日を送っています。大泉高校を離れ

ら21学級へと生徒数の激減と気質の変化に戸惑いながら、相変わらず柔道を主に元気にしております。

職員はほとんど入れ替わり、行事も臨海、スキー教室等が廃止され、大泉らしさが失われる中、唯一の救いは部活が相変わらず盛んなことではないでしょうか。私事ですが、六年前柔道の指導中頭部強打で硬膜下出血となりましたが、適切な処置で後遺症もなく現在に至っております。その折には卒業生の方々にも大変お世話になりました。有り難いことだと思っております。

追悼

心より先生方のご冥福をお祈り申し上げます。



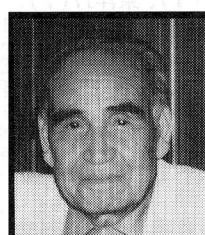
青木 元忠 先生
平成12年1月28日没
享年88歳
昭和17～21年在勤
数学科

先生は東京高師数学科卒で、中二期が昭和一七年に入学した時、群馬県足利中から赴任し、一年四組の担任となり、数学担当で代数を教わりました。四角な顔から愛称が「下駄」でした。テンポの早い教え方で理解し付いて行くのに苦労しました。大変に世話好きで授業の合間に儲かる話とか世間話を聞かれました。心の優しい方で、怒った事は一度もなかったです。罰を受けた生徒を庇ったのはいつも先生でした。囲碁、卓球等、趣味は豊富で、クラス会でのカラオケの美声は見事でした。一昨年のクラス会で大泉中時代の思い出スピーチが最後のお別れとなりました。合掌。(片山達郎・中二期)



堀江 徳宝 先生
平成12年2月14日没
享年81歳
昭和19～41年在勤
国語科

教室では厳しかったが、修学旅行中に「悪さ」をした生徒をかばうなど、思いやりの深い先生でした。約十年に及ぶ真摯な闘病生活、その間に開かれたクラス会では、「僕は立ったままで話すことに慣れているから。」と前置きをされ、毅然として、病気にどう対処してこれたかを話されました。お見舞いのおかげにもご返事を下さり、大泉の生徒を教えたことを誇りにしておられました。ご自宅で家族の皆様に見取られながらのご最期であったとのこと、心からご冥福をお祈り申し上げます。(北上俊人・高11期)



花崎 文一 先生
平成12年2月13日没
享年82歳
昭和22～42年在勤
理科

同窓会総会の折には、あんなにも元気一杯動き回っておられたのに、亡くなるなんて、誰も考えなかったのではないのでしょうか。大泉高校名物教師の一人として長年君臨してこられた、花崎先生。愛称「文ちゃん」。花崎先生は物理だけではなく、歴史にも造詣が深く、何でも知っておられ、優しい先生でした。惜しい先生を失った悲愴感は、今も続いています。巨星墜つとはこういう事を言うのだと実感しました。合掌。

(鈴木 哲・高16期)

緑 蔭

臨海学校と助教

母校、夏の行事「臨海学校」は一九六三(昭和38)年に始まり、31年間にわたり続けられました。一九九三(平成5)年をもって終わりました。初回は外房海岸で行われましたが、2回以降は終わるまで富浦海岸で行われ、高19期生から高48期生までの延べ一万二千人の同窓生が三泊四日の海を体験しました。

当時の「臨海学校のしおり」の中で、その目的がこのようにあらわされています。

① 規律ある集団として共同生活を営むことによって健全な社会性と個性の伸長をはかる。

② 水泳訓練を通して体力および水泳技能を向上させ、困難に耐えられる心を養うと共に水に対する認識を深めて不慮の水難に際しての自信を得させる。

③ 臨海生活を通してホームルームおよび学年の生徒相互の親密の度を深め、今後の学校生活をより充実したものとす。

一部の例外を除き、毎年7月24日から30日で、3泊4日の前・後期2回ずつの臨海学校を、千葉の富浦海岸で、民宿光崎旅館にお世話になり行ないました。

各期の基本日課は水泳訓練、集会、浜辺体操、クラスコンパ、遠泳、スイカ割、キャンプファイア、お別れパーティー。

水泳のレベルで、A・B・C・Dの4グループに分け、先生と助教の指導を受けます。A・B班は2時間、C班は1時間、D班は30分の遠泳を行ない、完泳賞が授与されます。

思い出や感動は人それぞれですが、大房岬の遠景、朝の砂浜での貝拾い、

海岸での騎馬戦、遊動円木のきしみ、ファイアーを囲んだフォークダンス、遠泳時のエンヤコラの掛け声、氷砂糖、そして完泳。冷えた体に暖かいお汁粉。母校の先生方にはお世話になりましたが、沢山の感動をありがとうございました。

助教の先輩たちは
眩しく素敵でした

臨海学校で記憶に残るのが黒帽子の「助教」の方々です。大学、社会人生活を謳歌しているフレッシュな先輩たちが、健康的な肉体で遊びきと働く姿は、高校一年生にとって眩しく映ったものです。助教は1回の夏で約50名、31年間で約三七〇名の同窓生が参加しました。助教と

して初回から15年間参加の杉山氏と、7回から14年間参加の関屋氏に語っていただきました。

助教の魅力の源泉

杉山武彦(高15期)

助教という名称が、体育あるいは教育関係の世界に既存のものであったのか、それとも大泉高校の臨海学校用に提案されたものなのか、私自身はいまだに知らない。いずれにしても助教は、「先生」でもない「生徒」でもない、夏の海におけるユニークな存在だった。

あとになって恥ずかしくもなり反省もしたが、私は助教を少し永く勤めすぎた。十年選手として表彰を受けた後も、さらに数年は続けた。ただし、私が一番長いというわけではない。もつと長く勤めた同世代の間が、少なくとも二人はいる。

長く続けたのは当然ながら、それに魅力を感じ続けたからだ。魅力の源泉の第一は、助教という仕事そのものの楽しさだった。定められたプログラムによる水泳訓練は、適齢の高校一年生に対して絶大な成果をもたらした。明確に感じ取ることのできた自分の心身の力の向上と達成感に、多くの生徒がふだん味わったことのない感激を体験していたように私には見えた。助教は、その感激と感動を自分のものとして共有したのだった。遠泳を完遂して手を取り合って泣いた助教と生徒の姿も思い起こす。助教の冥利はここに尽きていた。

魅力の源泉の第二は、助教という集団の面白さだった。どの年代も多士済々で、遠泳の日の天気図を作ってしまう人、毛沢東語録を中国語で

引用しながら助教の待遇改善を叫ぶ男、夜になると腹巻をして賭け事に興じる数学専攻の学生、物真似の天才グループ、「セミをやらせてイタダキマス!」と礼儀正しく挨拶して柱にとまる女性教師の卵など、それぞれに独特の味と能力を持った仲間が集い、互いの成長に大きな刺激となっていた。

助教の任務と生活は、思えば、素晴らしい教育実習の場だった。いま臨海学校はなくなってしまうが、類似の機能を持つ場がなにか別の領域で存在したならばと思うのは私だけではないだろう。



助教の仕事、感動そして楽しみ

関屋 収(高20期)

当時の家庭教師が週1回2時間、月1万円という時代に、3食昼寝付きとはいえないものの日給700円はいかに安かったのですが、一度参加したメンバーがその過酷な労働条件にも関わらず、何年も繰り返し参加するというのは「仕事」が面白かったことと、「感動」と「楽しみ」を経

験できたからではないかと思っています。

「仕事」といえば、この行事は長年無事故を守れたことが誇りです。点呼のバディシステムや入退水時の助教のポジションニングなど生徒を守るルールはしっかりしたものでした。しかし、対象の生徒は変わりますし、天候も変わります。朝晩のミーティングは、個々人の性格の把握や、技術の進歩に照らした指導を確認するなど、レベルの高いものでした。

「感動」といえばやはりD班の遠泳です。全く泳げなかった生徒が、30分を泳ぎきってしまうのです。これは、浮き輪ひとつと助教が1人ずつついて遠泳をしますが、顔を上げられない生徒に声だけで方向を指示し泳ぎきることもあります。完泳して涙の生徒から、後日お礼の暑中見舞いが届いたりするともう止められません。

「楽しみ」といえば助教の教科書「助教要録」の中に、「解散の後、助教は楽しく遊ぶ!」というルールがあります。新入助教を、「海坊主」と呼ばれる先輩たちが「三段蹴り」という技で海の底に沈める儀式や、人工島までの助教だけの遠泳。そして、助教だけが寝泊りする民宿小沢旅館では、最終日の夜、「月光仮面」「エイトマン」「ゴキブリの産卵」に「イロハのイの字」など、ありとあらゆる出し物でこれ以上の宴会は無いという反省会を行ないました。崇高な目的を持つ「仕事」と、「感動」と「楽しみ」を共有できる共同体が理想の組織なのかもしれません。50歳を迎えました、この共同体を超える組織に未だ出会っていません。

緑 蔭

クラブ訪問

現役生徒諸君の活躍を聞くのは嬉しいものです。都立高校では最大の運動場を持つ大泉の伝統である、文武両道の精神は現在も続いているようです。正面玄関ホールには、沢山のトロフィーや表彰状が飾られています。かつて活躍したOBが母校を訪問しました。

なごやかな雰囲気の中

華道部

大泉高校華道部の歴史は古く、創部以来、草月流です。私の高校時代は女子ばかりでしたので、現在の男子部員は貴重な存在です。私はこの華道部からいけばなを始めたのですが、今年で母校の指導も8年目を迎えて、自宅の教室でも教えています。在校生はもちろん、卒業生の方にも広く華道をお勧め致します。

(塩田光昌(照)・高40期)

華道部の部員は、女子3人、男子2人、先生1人というメンバーです。毎週水曜日に和室で楽しく稽古をしています。草月流の塩田光昌先生をお招きして教わっています。塩田先生は大泉高校の先輩で、とても優しいです。



2000年 7月 母校の和室での稽古風景

く教えてくださいます。

顧問の川島先生も優しいし、部員としていっしょに華道にはげんでいる鈴木先生も優しいし、和室には華道部らしいなごやかな雰囲気がただよっているのです。活動を発表する場として、毎週の稽古の成果を校内の2個所に展示し、先生や生徒に楽しんでもらっています。

ことしの文化祭では、いままで生物講義室でやっていた展示を2階廊下でやることにしました。ことしはもっとたくさんの人に見てもらいたいと思っています。

すこし心配なことは、1年生部員が一人しかいないことで、来年が心配です。

もつと部員ひとりひとりが腕をみがいて、「私も華道をやってみよう」とたくさんの人に思ってもらえるくらいきれいな花を学校にかざろうと思います。

(華道部部长 2年1組 川口麻衣子)

三塁側のルーツ

野球部

卒業して42年目の夏がやってくる。西東京大会予選での母校応援は、白球を追った仲間との出会いの場でもあり、又先輩後輩との友情の場でもある。野球部OBの7月のスケジュールは、母校応援優先にしている人が多い。最近では野球部以外の先輩の応援も多く、スタンドはさながら夏の同志会の感じがする。

の同志会の感じがする。

久しぶりの眩しい夏の太陽が照りつける6月某日、40年振りに母校のグラウンドに行った。すでに大勢の部員が打撃練習中であり、早速、監督の原先生(国語科)にご挨拶して現状をお聞きした。部員は47名、マネージャーは女子で3名とのこと。今夏は3年生が19名で、チームワークも抜群で、戦力から見ても、平成4、5年同様ベストエイト以上を狙いたいと力強い言葉をいただいた。



40年前 3塁側の土手をバックに

白球と取り組んでいる後輩を見ていと自分の高校時代を思い出した。当時の三塁側は土手になっており、放課後練習が始まると、女生徒で一杯であった。試合の時は普通はホームチームは一塁側なのに、大泉はそのために三塁側にしていた。この伝統は今でも続いているが、後輩達がそのルーツを知っているのかなあと思いつつ、薄暮のグラウンドを後にした。

(角原祐一・高10期)

と、たかをくくって野球部に入部したのですが、都中学校野球大会の優勝投手の角原君にあつてみごとに、鼻っ柱を折られました。彼は立派な体格と大きな手のひらと長い指を使い、当時プロ野球の杉下投手しか使えなかった魔球(落ちる球。その頃はフォークボールと呼ばれる球。その頃はフォークボールと呼んでいた)を習得し、加えて豪速球の高校生はなれた投手でした。京華商業戦では5回コールド勝ち15アウトの内12三振を奪った。ご腕は、マネージャーだった私の脳裏に今でも鮮明に蘇ります。

(高橋俊夫・高10期)

花園まであと一歩の年も

ラグビー部

わが大泉高校ラグビー部は、運動部の中でも最古を誇るクラブで、中3期より高52期までの54年間の歴史があり、そのOB会は会員数500余名を擁しています。

平成8年に、創部50周年記念式典を開き、かつての顧問の堤、佐々木、山谷諸先生を囲んで一五〇名のOBが集いました。また、立派な50周年記念誌も発行いたしました。

毎年OB総会を開催し、40名ほどのOBが集まり、現役との交流試合を楽しんだ後、円形校舎での懇親会を行っています。今年も4月1日に開催して新卒業生に記念品を渡して労をねぎらいました。

また有名な選手を輩出しています。日比野弘先輩(高5期)です。早稲田大学に進み、全日本の右ウィングとして活躍され、現在日本ラグビー協会の専務理事と早稲田大学教授をやられております。正月のラグビー

中継では、解説者としてテレビにでる機会が多いのでご存知の方も多いと思います。



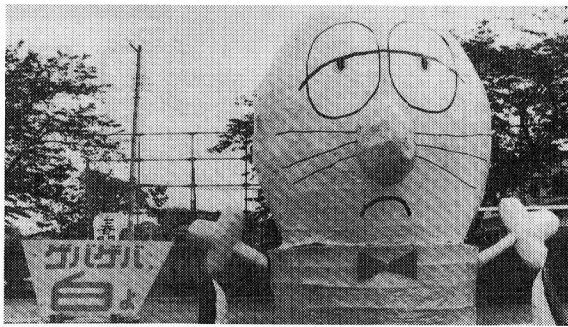
2000年の夏合宿 1、2年の現役部員

今までの戦跡ですが、関東大会には連続15回の出場をほこり、昭和48年秋の全国大会東京都予選では決勝で目黒高校に敗れ、残念にも花園に出場できなかった歴史も有ります。

現役は、鎌田先生のご指導で3年生13名、2年生6名、1年生9名、マネージャー6名の総勢34名を数えます。昨年の10月より現在の3年生・2年生が練習に打ち込み、すばらしい戦跡を残しています。春の新人戦では、日大鶴ヶ丘・国立・明大八王子と戦い全勝で終えました。秋の全国大会東京都予選のシード権を獲得しています。

英国に「ラグビーは少年を誰よりも早く大人にし、大人をいつまでも少年でいさせる」という言葉がありますが、世代を超えたOBが大泉のグラウンドで汗を流した青春を共有する、そんなOB会です。

(森田信夫・高19期)



ゲバゲバおじさん (S46)

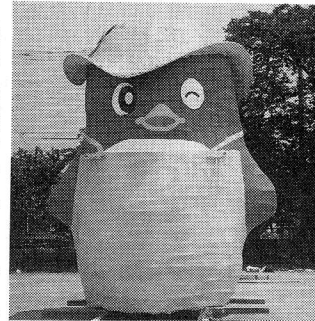
当初は、応援団の手で制作されていましたが、その後設立されたマスコット委員会に引き継がれました。初期のキャラクターには、動物やカップ、ダルマなど普遍的な題材が扱われていました。昭和40年頃からテレビやマンガ、CMなどの人気者が主流を占めるようになり、現在に至っています。

体育祭名物のマスコットは、高さ5mにもなる大きなはりぼてです。骨組みを角材と枝木で、外形を竹でつくり、その上に幾重にも新聞紙を貼り、ペンキを塗って完成させます。平成8年からは危険防止のため建築現場用の足場を組んで作業をしています。

緑 蔭

マスコット今昔物語

新制大泉高校で運動会が開催されるに伴い誕生したマスコットは、半世紀にわたり、応援団とともに体育祭の華として活躍してきました。母校に保存されているアルバムを開くと、そこには体育祭のシンボルとしての存在を超えて、まさにその時代を象徴するモニュメントとしてそびえ立っているマスコットの姿が写し出されています。



ピッコロ (H12)

歴史と伝統のあるマスコットですが、制作費用(現在1体約10万円)や短い工期での過酷な作業のため、「存在意義」についての論争が時代を超えて繰り返され、その役割も次第に変化してきました。

かつては、応援合戦の一部分として、赤・白・青、各組の得点対象になっていたましたが、平成7年に生徒数減少により全校を赤白2つの組に再編したことにともない、それぞれの組とは別個に「体育祭のシンボル」として2体1組のマスコットを制作するようになりました。そして、今年度からは1体のみの制作となりました。代わって、近年では、秋の文化祭で小型のマスコットが「祭のシンボル」として、校舎入口で来場者の目を楽しませてくれています。

(会報部)

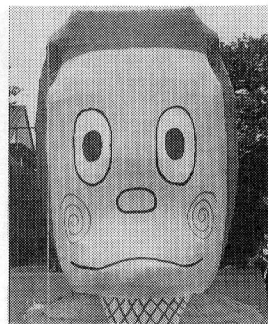
誇るべき伝統を未来へ

太田 研一郎(高36期)

私が委員長を務めさせて頂いた昭和57年は、体育館や運動場側の木造

校舎が残っていた最後の時代でした。当時を振り返れば、様々なことが懐かしく想い起こされます。

マスコットの輪郭となる新聞貼りは大変でした。だるまストロブで小麦粉を煮て糊を作るのですが、材料が足りなくなり、近所のスーパーから「ありったけ」買い漁ってきたり、ストロブで足をヤケドしたり、悪戦苦闘の連続でした。余った小麦粉をストロブで焼いて、ホットケーキを食べたなんて余録もありましたが、天候にも非常に気を遣いました。特に色付けの時には、雨が降らないようにマスコットに「てるてるぼうず」をつるして作業をしていました。



忍者ハットリくん(S57)

制作期間が一月半と限られていたため、体育祭が近づくにつれ、早朝昼休み、放課後と寸暇を惜しんで作業をしていました。マスコットの内部で三食をとった強者もいたようです。遅れている組には、委員全員が組の枠を越えて手伝いました。とにかく3体揃えて体育祭に展示することが皆の目標でした。完成したときには、達成感と充実感が胸がいっぱいになりました。

マスコットを通して多くの人達と出逢い、大泉高校の伝統の一端に与えたことを誇りに思います。そして、この素晴らしい伝統が、未来へと引き継がれてゆくことを願っています。

マスコット年表

※年表の不明部分をご存じの方は、事務局まで是非ご一報ください。

昭和26年以前 不明
27年 ダルマ 他不明
28年 ブルーシャトゥ/ダルマ 他不明
29年 タヌキ/ダルマ/ゴジラ
30年 雪ダルマ 他不明
31年 ダルマ/白クマ/ペンギン
32年 ゴジラ/タヌキ 他不明
33年 グラマー美女/白ヌ/青鬼
34年 大ダコ/白クマ/大蛇
35年 白ウサギ/カッパ 他不明
36年 ダルマ/ダンボ/ゴジラ
37年 天狗/ネッシー/大蛇
38年 赤鬼/アザラシ/カッパ
39年 金太郎/白クマ/青竜
40年 タヌキ(?) /ピッコロ/クロヨン
41年 不明
42年 孫悟空/パンダ/トラヒゲ
43年 不明
44年 怪物くん/パットマンX/クロヨン
45年 ムーミン/ココロのボス/名称不明
46年 アンクルトリス/ゲバゲバおじさん/グリグリ
47年 木枯し紋次郎/スノーピー/バカボン

48年 仮面ライダー/ど根性ガエル/キングコング(?)
49年 ブルース・リー/ザ・デストロイヤー/ジャンボマックス
50年 チャーリー・ブラウン/がきデカ/スナミ先生(?)
51年 バカボンパパ/写楽保介 他不明
52年 ドナルドダック/殿馬一人 他不明
53年 沖田鑑長/岩鬼正美/キンドーちゃん
54年 サイボーグ009/ルパン三世/パットマン
55年 タブチくん/ドラエモン/クマさん(小島勇作先生)
56年 アラレちゃん/じゃりんこチエ/怪物くん
57年 タケちゃんマン/スパンク/忍者ハットリくん
58年 タモリ/プシュマン/ニコチャン大王
59年 パーマン/「タコ耐ハイ」のタコ/スウィートメモリーズペンギン(?)
60年 キン肉マン/塩沢とき/つくば万博マスコット
61年 まねき猫/オバQ/目玉オヤジ

62年 伊達政宗/明石家さんま/デーモン小暮
63年 バカボンパパ/スケ作先生/キョンシー
平成元年 ジョイナー/仮面ライダー/オバタリアン
2年 桑田真澄/パットマン/スナフキン
3年 パート 他不明
4年 不明
[文化祭]「伝染るんです」のかわうそ、カッパ
5年 不明
6年 「ヴァンサンカン」の牛/クマのプーさん/ガチャピン
7年 不明
8年 「DCカード」のカップとタヌキ
[文化祭] 不明
9年 ドラエモン/ドラミちゃん
[文化祭] アンパンマン/ダースベダー
10年 ガチャピン/ムック
[文化祭] トトロ/ねこバス
11年 キョロちゃん/ゴン太くん
[文化祭] オバQ/O次郎
12年 ピッコロ

同期会だより OBOG会だより

中2期

古希を迎えて未だ
人生半ばなり

安藤 雄一

今迄は、会場を池袋、新宿、丸ノ内等都心として来た同期会ですが、会員が古希を迎えた折でもあり、久しぶりに思い出の地で開こうという事で、今回は昨10月24日いずみ会総会後、石神井池畔のそば屋「中屋敷」で行われました。

当日は「この辺は教練で散々走り廻った畑や林の中の道だったな」等話し合いながら歩くと、次々と五十年前の恩師、友人の顔が鮮明に浮かび上がって来ました。

同期会は、鈴木高男先生をお迎えし、平成7年の紫綬褒章に続き、今



回日本学士院賞を受賞した上代淑人君に「ヒトの遺伝子研究の現状II」のテーマで、座談で話をしてもらいました。「DNA研究により、ヒトの寿命は120才以上あることが判っている。70才ではまだ半ば過ぎだよ」の言に各々今迄の不養生を反省すると共に、何か少し明るい気分にもなりました。

毎回お元気な顔を見せて下さっていた青木元忠先生が1月に亡くなされました。心よりお礼とお悔やみを申し上げます。

高10期

還暦の朱に
紳士淑女は頬染めて

角原 佑一

三年前に再会を約束した高10同期は記念となる還暦の年でもあり、全員の新たな記念の場所として、11月20日土曜日銀座4丁目のサッポロビールスターホールで開催されました。

ウエルカムドリンクのビール、清酒、ワイン等で紳士淑女は旧交を温め、銀座のネオンの仕業にした人もいましたが、顔火照る状態の中、午後5時30分に開会しました。

先生は、大橋先生、宇高先生、中山先生に出席していただきました。そして岡崎先生からは心温まるお手紙をいただきました。参加者は、北海道、九州からも見え、一二〇名と大盛会でした。会はクラス毎の報告



や、先生を囲んでの懇親等であつという間に終了の午後9時30分になりました。紳士淑女の顔も、この時は高校時代の顔でした。

最後に全員で、中山先生の指揮で校歌を歌い、二〇〇〇年の総会が、0期が当番であることを全員で確認し、当日は母校での再会を約束して銀座の夜に更なる友情を深めに出かけました。

高13期

40歳は青春の老年であり
50歳は老年の青春である

山本 章義

第五回同期会は、昨年10月16日アルカディア市ヶ谷にて開催されました。景気が低迷し、また我々の世代はリストラをもろに受けていますので、三年前の同期会より減るのではと幹事一同予想していましたが、ほぼ前回同数の七〇名が一堂に会しました。卒業三八年ぶりに初めて出席という懐かしい人も何人かいます。

高18期

文ちゃんからは
ラストになったメッセージ

田口 健一郎



また高橋茂、清水芳彦、鈴木高男、須田、菊谷の諸先生方にご出席戴きまして盛会となりました。各幹事の挨拶後、遠路沖縄から駆けつけてくれました松園君の音頭で乾杯し、高橋先生を筆頭に先生方の近況報告や当時の授業中の思い出話などがあり、爆笑させられました。めいめいがお酒を片手に懐かしい先生方へ挨拶にいたり、級友と旧交を温めたりで、あつという間にお開きとなり、二次会場へ移りました。前回より同期会開催記念として13期会報を西脇、安達さんの尽力により発行しています。次回は全員が還暦を迎える平成15年3月過ぎに、お祝いを兼ねて開催する予定です。

秋晴れの一九九九年11月20日(土)、午後1時半より、新宿の「モ

ノリス29」に於て、高校18期の同期会を開催しました。当日は同期生約七〇名の他、来賓として大橋先生、花崎先生を始めとして十一名の先生方にもお集まり頂きました。

乾杯の後、まず各クラスの主だったメンバーより近況の報告をしてもらいました。およそ二年ぶりの同期会ということもあって、お互いの近況に話も大いにはずみしました。

さらに出席頂いた各先生方より一言ご挨拶を頂き、三時間にわたる会を終了しました。その後、近くの京王プラザホテルにて二次会を開催。ほぼ全員が参加して大いに語り、二年後の再会を約して散会いたしました。

花崎先生はこの会のあと体調を崩され、本年2月にお亡くなりになりました。この会で頂いたメッセージが私たちへの最後の言葉となりました。心よりご冥福をお祈りします。



高校29期

リバイバル上映
24年前の顔・顔・顔

斎藤 俊夫

4年という月日があつという間に過ぎ、高29期同期会開催の年が来ました。直前の準備も念入りに進め、校章にふさわしいような桜満開の日約100名の方々がアルカディア市ヶ谷へと集まりました。当時撮影したクラス集合写真を三学年全クラス分貼り出し、受験勉強そっちのけで作った、文化祭自主制作映画の二四年振りのリバイバル上映もし、若かりし頃の我が姿に皆酔いしれていました。恩師の方々は、三年生当時を担任頂いた江平先生、高林先生、大野先生、佐藤先生、鹿沼先生の他、1年7組担任後に転任された佐伯先生にもご来場頂き、お元気な姿に感動もひとしおでした。校歌、校友の歌大合唱のときには、皆当時を想い出し昔の顔つきに戻っていました。



二次会、三次会も予想以上の人数が押し寄せ、終電も気にせず大盛況でした。四十代に突入しても、まだ気持ちは若いつもりの高校29期、次回如何に展開するでしょうか? 4年後の再会が楽しみです。

バスケット部

秋田 茂 (高29期)

バスケットボール部では、毎年9月第一日曜日に大泉高校にて、OBOG会を開催しています。総会の後、現役との試合、OBOG同志の試合と、ボールを追って、汗をかき、老いも若きもコートを走り回っています。なつかしい体育館はありませんが、高校時代に還れる時間です。年一回、大泉高校へ来ることを楽しみにしている方もおり、現役との試合を通じて、時代の移り変わりを見ることもできます。

最近では、三十代の方の参加が少なく、少々さびしい感があります。夏が明け、9月になったらバスケのOBOG会! 毎年の行事として予定しておいて下さい。試合の後のビールも最高ですよ!

柔道部

萩原 正俊 (高23期)

高校を卒業して29年。OBOG会の通知が来ると柔道着を取り出し、まだ着られるかなと思いつつ一度袖を通してみます。

今年も7月15日に行われ、柔道部の創設期から長い間顧問をされていた工藤先生は、お体の具合で出席されなかったものの、工藤先生を慕い

大泉高校へ来られた佐藤先生と現在の顧問である矢野先生、そしてその弟子であるOB達が集まり、現役の高校生達と道場で練習をし、二次会では旧交を温めました。

練習をしながら、私の三人の娘達が息子であつたかと思うのは、私の我がままでしょうか。

柔道創始者である加納治五郎の最後の直弟子である工藤先生のお体が一日も早く回復されることを心からお祈りいたします。

コーラス部

小川 陽弘 (高3期)

OBOG合唱団では昨年8月に伊豆で一泊の合宿・懇親会を行い、ほとんどのメンバーが参加して大盛会でした。今年もこの会報が出る頃には清里高原での合宿も終え、年末の「とし忘れコンサート」に向けて、鋭意練習中の筈です。

このコンサートは一昨年の初演に続く第二回で、12月10日に校台で開催します。前回と同様に日曜日の午後のひとときを、飲んだり食べたり歌ったり喋ったりと、賑やかに楽しく過ごす予定です。



合唱団には今年も三人程の「新人」が加入して、岡部先生の指導と上川路さん(高25期)のピアノによる練習もますます充実してきました。第3金曜日の母校での練習で、一緒に歌いたい方の参加を歓迎します。

新聞小委員会

武市昭則 (高9期)

5月23日18時より有楽町のレストランで新聞小委員会のOBOGが会合を開きました。

集まったのは茂木、谷治(高8期)、手島、武市(高9期)、斉藤、後藤、羽根田(旧姓三松)(高10期)、富永、風間、菊地(旧姓菅田)(高11期)の11名。四〇年以上前の大泉高校新聞の編集の思い出話に楽しい一時を持ちました。気になるのは現在の新聞がどの様に作られ、どんな紙面なのか一度新聞小委員会を訪ねてみたいということでした。

物故者も多く、7期から10期の新聞経験者中6名、なかでも本年3月に亡くなられた栗原邦夫氏(高7期)は、会報いずみ42号(平成10年9月号)に大泉高校新聞の変遷について寄稿して頂いたことでもあり、同氏の思い出話で故人を偲びました。

お知らせ

高8期同期会

日時・平成13年4月7日(土)

場所・東武パンケットホール

詳細は追ってお知らせします。

連絡先・宇田川公子03-33702

2011・茂木光男0489-5

7-1673

高24期同期会

日時・平成12年11月25日(土)

PM 3:00~5:00

会場・詳細は追って連絡します

連絡先・真柳仁

03-3923-2817

高21期ミレニアム同期会

平成12年11月11日(土)18時

モノリス29

新宿区新宿2-3-1

連絡先・岩城、植村まで。

高26期同期会

平成12年11月11~12日、一泊旅行で開催予定です。詳しくはご案内差し上げます。楽しみにお待ち下さい。

連絡先・鹿島千恵子

03-3952-2121

高28期同期会

来年、21世紀最初の年に、5年ぶりの同期会を開催する予定です。

準備会を今後開催いたしますので、参加希望の方はご連絡ください。

連絡先・田中大介

03-3280-2184(FAX)

同期会開催を応援します

当会では会員の皆さんの同期会開催の際、以下の支援をいたしますので、多に利用してください。

●ネームプレートの貸し出し。

●校歌、校友の歌のテープの貸し出し。(歌詞付き)

●郵送用宛名シールの提供。(実費)

会員計報(敬称略)

心よりご冥福をお祈りします

高7期 栗原 邦夫

平成12年3月3日

高10期 中川(橋本)陽子

平成12年3月7日

10・22 母校 総会・懇親会のご案内

★年一回、いずみ会会員が集い、親睦を深める場、それが、総会・懇親会です。

と き：平成12年10月22日(日)

12時30分～ 受付開始

13時～ 総会

13時30分～ 懇親会

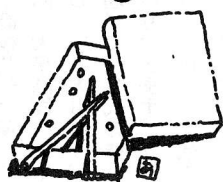
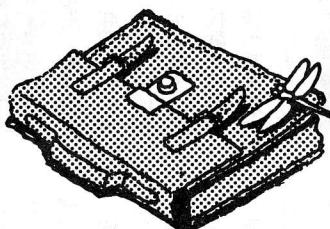
15時30分 終了予定

ところ：母校 多目的教室・大会議室

会 費：中1期～高39期 2,000円

高40期～高49期 1,000円

高50期～高52期 無料



★今年は、卒業期の下一桁0の期が、「0の会」を結成し、当番期として、懇親会を盛り上げます。

★今回の懇親会では

「美味しんぼ大泉 2000年に乾杯!」

生ビールサーバーと美味しい料理を用意し、各種お酒も飲み放題です。

★ご出席の方は同封のはがきにて、9月末日までにご連絡ください。

新名簿が出来ました

今年秋に「いずみ会2000年名簿」が発行されます。お申し込み頂いている方には、10月過ぎにお手元に届く予定です。

新名簿販売のお知らせ

前号会報で名簿の販売は予約制とお知らせしましたが、締め切り後も多数の申し込みがありました。つきましては在庫がある限り、今後も販売を継続いたしますので、ご希望の方は同封の振込用紙でお申し込みください。

住所情報をお寄せください

前号の会報で、不明住所情報の呼びかけの「WANTED」を実施しましたところ、多数の会員の方から1000件以上の情報が集まりました。

特に若い期を中心にEメールでの連絡が多かったです。

今後とも、引き続きいずみ会連絡窓口へ、不明住所情報をお寄せください。

お願い

会報いずみでは会員の皆様の集いの様子を毎月お伝えしています。

同期会、クラス会、OBOG会等の開催がありましたら、予定も含め情報をお寄せください。

また、会員の訃報につきましてもお寄せください。

文化祭へのお誘い

いずみ会は母校の文化祭へ、昨年に引き続き、参加します。

キャンパスの見学も兼ね、お誘いあわせてお越しください。

●文化祭・開催日程

平成12年9月23日(土)、24日(日)

●いずみ会・特別講演会

平成12年9月23日(土) 午後開催予定

※母校OB(いずみ会会員)の講演会です。

※詳細は、当日、受付にて配布のパンフレットをご覧ください。

事務局幹事 募集中

いずみ会では、名簿情報の整備、広報の取材、編集などをお手伝いいただく「事務局幹事」の皆さんを募集しています。

お時間の許す方、老若男女を問わず、ご連絡ください。

会費納入、ご寄付のお願い

●卒業後10年を過ぎた年度(高42期以前)から、70歳に達する年度までの会員の方は、同封の振込用紙で、年額1000円の会費を納入してください。

●数年分の前納もお預かりします。

●納入義務のない方もご寄付は大歓迎です。

●納入状況は宛名シールの下に表記されています。

母校が創立60周年を迎えます。協賛事業へのご協力を!

来年2001年、母校は、創立60周年を迎えます。

来秋をめざし、今後、母校の記念行事準備委員会にて詳細が詰められていく予定ですが、都の財政難の折、同窓会やPTAのバックアップが欠かせない状況です。

図書館に設置されたいずみ会文庫(OBの著作を展示するコーナー)の整備や、「60周年記念誌」作成へのご協力、何卒、よろしくお願いいたします。

●協賛事業へのご協力は、同封の「いずみ会・母校創立60周年協賛事業」の振込用紙にて、お願いします。(同窓会費納入用の振込用紙も同封されています。お間違いないよう、ご注意ください)

●1口1,000円、2口以上でのご協力をお願いいたします。

母校「いずみ会文庫」にご寄贈ください

母校では会員の皆様の著作(共著、翻訳、漫画、ビデオ等も歓迎)を図書室に設置された「いずみ会文庫」に置き、現役生徒の励み、目標にしています。今後ともぜひ、ご寄贈をお願いします。他薦もよろしく。

〒178-0063 練馬区東大泉5-3-1

都立大泉高校内 いずみ会文庫 宛

いずみ会連絡窓口

ご意見、ご感想、住所情報等は下記の方法で連絡をお願いします。

●同封のハガキにて、お寄せ下さい。

●郵便 〒178-0063 練馬区東大泉5-3-1

都立大泉高校内 いずみ会

●FAXなら、03-3920-2374

●Eメールなら、izumikai@drive.co.jp

編集後記

■「臨海学校と助教」で寄稿をお願いした杉山、関屋両氏はお二人とも奥様は大泉生で助教の方だそうです。助教の会は正に「助教ファミリー」で、その絆は固いようです■手品で有名なM副会長は携帯電話の着メロに母校校歌を入れてます。理事会の会議中に時々、校歌が流れます。いずみ会も遊び心を大切に楽しくコウカ的にやりたいものです。■会報部編集スタッフ 北上俊人(高11期)、森田陸四郎(高15期)、寺章夫(高20期)、荒井真理子(高20期)、植村久(高21期)、仲沢浩一(高32期)